

らかじめ上端まで展開し、風乾後、110°Cで60分加熱した薄層板を用いる。

蒸発残分 本品約12.5gを精密に量り、ジエチルエーテル50mLに溶かし、分液漏斗に入れ、分離した水層を別の分液漏斗に移し、ジエチルエーテル10mLを加えて振り混ぜ、ジエチルエーテル層を前の分液漏斗に合わせる。ジエチルエーテル層に無水硫酸ナトリウム3gを加え、振り混ぜた後、乾燥ろ紙を用いてろ過し、分液漏斗及びろ紙はジエチルエーテル20mLずつを用いて2回洗い、洗液はろ液に合わせ、水浴上でほとんどジエチルエーテルのにおいなくなるまで蒸発した後、残留物をデシケーター（減圧、シリカゲル）で24時間乾燥するとき、その量は70～75%である。

貯法

保存条件 30°C以下で保存する。

容器 密閉容器。

精製ラノリン

Purified Lanolin

ADEPS LANAE PURIFICATUS

本品はヒツジ *Ovis aries* Linné (*Bovidae*) の毛から得た脂肪よう物質を精製したものである。

性状 本品は淡黄色～帯黄褐色の粘性の軟膏よりの物質で、敗油性でないわずかに特異なおいがある。

本品はジエチルエーテル又はシクロヘキサンに極めて溶けやすく、テトラヒドロフラン又はトルエンに溶けやすく、エタノール(95)に極めて溶けにくい。

本品は水にほとんど溶けませんが、2倍量の水を混和しても水を分離せず、軟膏よりの粘性がある。

融点：37～43°C

確認試験 本品のシクロヘキサン溶液(1→50)1mLを注意して硫酸2mLの上に層積するとき、境界面は赤褐色を呈し、硫酸層は緑色の蛍光を発する。

酸価 1.0以下。

ヨウ素価 18～36 本品約0.8gを500mLの共栓フラスコに精密に量り、シクロヘキサン20mLに溶かし、次にハヌス試液25mLを正確に加え、よく振り混ぜる。液が澄明にならないときは、更にシクロヘキサンを追加して澄明とした後、密栓し、遮光して20～30°Cで1時間時々振り混ぜながら放置する。次にヨウ化カリウム溶液(1→10)20mL及び水100mLを加えて振り混ぜた後、遊離したヨウ素を0.1mol/Lチオ硫酸ナトリウム液で滴定する(指示薬：デンプン試液1mL)。同様の方法で空試験を行う。

$$\text{ヨウ素価} = \frac{(a - b) \times 1.269}{\text{試料の量 (g)}}$$

a：空試験における0.1mol/Lチオ硫酸ナトリウム液の消費量(mL)。

b：試料の試験における0.1mol/Lチオ硫酸ナトリウム液の消費量(mL)。

純度試験

(1) 液性 本品5gに水25mLを加え、10分間煮沸し、冷後、水を加えてもとの質量とし、水層を分取するとき、その水層は中性である。

(2) 塩化物 本品2.0gに水40mLを加え、10分間煮

沸し、冷後、水を加えてもとの質量とし、ろ過する。ろ液20mLに希硝酸6mL及び水を加えて50mLとする。これを検液とし、試験を行う。比較液には0.01mol/L塩酸1.0mLを加える(0.036%以下)。

(3) アンモニア (1)の水層10mLに水酸化ナトリウム試液1mLを加え、煮沸するとき、発生するガスは潤した赤色リトマス紙を青変しない。

(4) 水溶性有機物 (1)の水層5mLに0.002mol/L過マンガン酸カリウム液0.25mLを加え、5分間放置するとき、液の紅色は消えない。

(5) ワセリン 本品1.0gをテトラヒドロフラン/イソオクタン混液(1:1)10mLに溶かし、試料溶液とする。同様にワセリン0.020gをテトラヒドロフラン/イソオクタン混液(1:1)10mLに溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液25μLずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にイソオクタンを展開溶媒として約10cm展開した後、薄層板を風乾する。これに薄めた硫酸(1→2)を均等に噴霧し、80°Cで5分間加熱する。冷後、これに紫外線(主波長365nm)を照射するとき、ワセリンのスポットと同じ位置にワセリンと同じ蛍光を発するスポットを認めない。ただし、この試験には、イソオクタンを用いてあらかじめ上端まで展開し、風乾後、110°Cで60分加熱した薄層板を用いる。

乾燥減量 0.5%以下(1g, 105°C, 2時間)。

灰分 0.1%以下(生薬試験法の灰分の項を準用する)。

貯法

保存条件 30°C以下で保存する。

容器 密閉容器。

リュウゴツ

Longgu

FOSSILIA OSSIS MASTODI

竜骨

本品は大型ほ乳動物の化石化した骨で、主として炭酸カルシウムからなる。

性状 本品は不定形の塊又は破片で、ときには円柱状の塊である。外面は淡灰白色を呈し、ところどころに灰黒色又は黄褐色のはん点を付けるものがある。外側部は質のち密な2～10mmの層からなり、淡褐色を呈する多孔質部を包囲する。質は重くて堅いがややもろく、破碎すると小片及び粉末となる。

本品はにおい及び味が無い。なめるとき、舌に強く吸着する。

確認試験

(1) 本品の粉末0.5gを希塩酸10mLに溶かすとき、ガスを発生し、わずかに淡褐色を帯びるやや混濁した液となる。このガスを水酸化カルシウム試液に通じるとき、白色の沈殿を生じる。

(2) (1)で得た混濁液は特異なおいを発する。この液をろ過し、アンモニア試液で中和した液はカルシウム塩の定性反応を呈する。

(3) 本品の粉末0.1gに硝酸5mLを加え、加温して溶